

《原 著》

不安定狭心症における ATP 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィの有用性

笠井 督雄* 山科 章** 久保 亨*** 白井 靖博***
森 豊****

* 東京慈恵会医科大学内科学講座第 4

** 東京医科大学第二内科

*** 聖路加国際病院内科

**** 東京慈恵会医科大学放射線科

要旨 切迫梗塞と房室ブロックを除く不安定狭心症 51 例を対象に、最終発作から 1 週間以内の急性期に ATP 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィ (ATP-Tl) と冠動脈造影を施行し、責任冠動脈の検出能を検討した。SPECT 像から左室を 17 領域に分割して 4 段階にスコア化 (0: 正常 ~ 3: 欠損) し defect score (DS) とした。早期像と後期像の DS 総和の差を redistribution score (RS) とし、連続する 2 領域以上で DS が 1 以上かつ RS が 2 以上の場合を虚血ありと判定した。責任冠動脈の検出における感度、特異度および正診率はそれぞれ 96.4% , 89.5% , 92.4% であった。負荷に伴う合併症は胸部絞扼感などの症状を 28 例 (54.9%) に認めたが、全例 2 分以内に消失した。不安定狭心症の急性期に行う ATP-Tl は安全に施行可能で、診断および責任冠動脈の同定に有用であると考えられた。

(核医学 36: 819-826, 1999)